



飛翔

平成20年7月第19号
発行元
群馬県防衛協会
印刷所



雨の中、巡閲をする旅団長



式辞を述べる長谷部旅団長

第十二旅団創立七周年 相馬原駐屯地創設四十九周年記念行事



祝辞を述べる佐藤参議院議員



祝辞を述べる小淵衆議院議員



祝辞を述べる大澤群馬県知事



祝辞を述べる富岡参議院議員



万歳の御発声をする町田隊友会長



祝辞を述べる町田防衛協会会長

第12旅団（旅団長・長谷部将補）および相馬原駐屯地（司令・古河1佐）は4月13日、相馬原駐屯地並びに同飛行場地区において「第12旅団創立7周年・相馬原駐屯地創設49周年記念行事」を小淵優子衆議院議員、佐藤正久参議院議員、富岡由紀夫参議院議員をはじめ、大澤正明群馬県知事および来賓多数の臨席のもと、盛大に挙行了。

桜がほほ満開の時期に行われた記念行事は、威風堂々の観閲行進、模擬戦闘訓練など生憎の雨にもかかわらず訪れた1万2千人の観衆を魅了した。

式典終了後、会場内に設けられた旅団活動展示コーナー、装備品展示、高機動車試乗および模擬売店は終日賑わい、来場した親子は「雨で（来るのを）やめようと思いましたが、来てよかった。ヘリコプターの飛行は見れなかったけど満足しました。」と話してくれた。



旅団長感謝状受賞者
 4月13日、旅団創立7周年・相馬原駐屯地創設49周年記念行事に伴い、日頃旅団及び相馬原駐屯地に対してご支援・ご協力をいただいております方々に第12旅団長及び相馬原駐屯地司令より感謝状が贈呈された。

旅団長感謝状受賞者

一、個人(26名)

(群馬県)
 群馬県郷友会理事事務局長 橋爪 三郎

群馬県隊友会副会長兼事務局長 西澤 忠司

群馬県防衛協会副会長 佐藤 富三

榛東さいとう医院院長 齋藤 明

新井胃腸科診療所常任理事診療所長 岸川 一郎

吉岡町自衛隊協力会会長 福田 英作

自衛隊新町駐屯地協力会会長 相原 武

野中医院理事長 野中 武久

群馬県防衛協会女性部会長 橋 政江

(栃木県)
 栃木県隊友会副会長兼事務局長 坂本 芳弘

おおるり会副会長 上野 裕子

宇都宮やまき会副会長 渡邊 榮

栃木県防衛協会女性部長 中川 今日子

自衛隊父兄会栃木県支部連合会組織部長自衛官募集相談員 葛生 晃三

(新潟県)

荒井アンドアソシエイツ株式会社代表取締役社長 荒井三ノ進

上越地域総合健康管理センター医師 山本 保

(財)盛田スポーツ振興財団事務局長 平井 俊雄

菊水酒造株式会社代表取締役社長 高澤 大介

阿賀野市新荒田自衛隊女性協力会会長 遠藤 悦子

渡辺医院理事長 渡邊 元

関帆刈組代表取締役 帆刈 信雄

自衛隊父兄会新潟県支部連合会副会長 東條 邦昭

(長野県)
 自衛隊父兄会長野県支部連合会会長 今井 忠二

箕輪町自衛隊協力会会長 市川 治寛

茅野市自衛隊協力会会長 上條 昌良

長野県防衛友の会会長 山崎 紀郎

二、団体(1団体)
 関越交通株式会社



司令感謝状受賞者

一、個人(6名)

元榛東村助役 萩原 栄一

吉岡町婦人会会長 福田 英子

伊香保町婦人会会長 野村 時枝

群馬町自衛隊協力会女性部部長



松岡 幸子
 池下工業興取締役社長

小島 秀雄
 元警視庁白バイ隊員

田島 博一
 二、団体(1団体)
 軽井沢測候所



第2普通科連隊

第12旅団(旅団長・長谷部将補)

第2普通科連隊長(徳田1佐)を担任官に旅団管内の選抜された隊員に対して「第8期旅団レジャー集合訓練」を行っている。

訓練は、陸曹・陸士総勢21人の学生が教官・助教の厳しい指導の下、地国判読・ロープ訓練・体力調整等の基礎訓練を受け、体力・精神力の限界に挑戦している。

基礎訓練は6月中旬で終了し、中旬以降、更に厳しい行動訓練に入った。行動訓練は、徒歩による長距離機動、ヘリコプターを使用した空地からの潜入・離脱、渡河ボート等を使用した水路潜入・



離脱等、それに伴う各種任務が付与され、回を重ねるごとに厳しくなり学生はいかなる困難な状況も克服し、任務完遂出来るよう訓練している。

本訓練を終了した学生は、各部隊に帰ってからのレジャー隊員として勝利の証の月桂樹に強固な意志を表すダイヤモンドをかたどったレジャー記念章を胸に、さらに磨きをかけ過酷な任務にあたる。

宇都宮駐屯地

宇都宮駐屯地(司令・三宅1佐)は、5月28日から30日の間、富士重工株式会社新入社員19名の隊内生活体験を実施した。

本生活体験は、第6地対艦ミサイル連隊本部管理中隊(中隊長・中村1尉)が担任し、基本教練や救急法、体力検定等が実施された。

参加した人たちは、初めての体験に苦勞していたが、できるまで助教等に質問するなど熱心に取り組み担当した部隊は指導、努力の成果が十分に発揮できたと安心していた。



また、体験者の所感文には、「研修を通して仲間との絆や規律など人間としての成長するための基礎を学ばせてくれました。」「講話を通して、現在の日本周辺国のこと、自衛隊の活動がわかり、自分の知識を増やすことがで

きた。」「団体行動における時間意識や仲間との結束を新たに強くすることができ、大変良い経験になった。」「など全般に前向きな意見が多く所期の目的を十分に達成した。

相馬原駐屯地

第12旅団司令部付隊(付隊長・松井3佐)では、5月16日から19日までの間、相馬原駐屯地および同演習場において、新潟県にある越後製菓株式会社の社員39名に対し隊内生活体験を実施した。



この生活体験は、越後製菓株式会社の社長より「ぜひ、社員に対し自衛隊の規律と訓練を体験させ、個人・集団における礼儀やマナーを教えてほしい」との要望を受け行われた。

今回、39人中23人が女性という旅団としても例がない生活体験となった。16日到着した社員は、まず、被服交付を受け、はじめて身に着ける戦闘服に期待と不安を覚えつつ緊張したおももちで着

用していた。

その後、今生活体験の概要の説明を受け、さっそく基本動作に入った。「拳手の敬礼」や「息を吐く」「休め」の停止間の動作を行った後、「行進間の動作」に移行し社員自らが指揮官となり行進した。

翌日は、旅団の特性である特殊降下訓練(リベリング)を降下塔において実施し、最初は怖がって7mの降下もちゅうちょする社員もいたが、次第に度胸がつき最後は全員が堂々と降下できるようになった。

また、18日は演習場内を約10kmの徒歩行進を行い、まめをつくった社員もいたが全員が完歩した。午後、付隊長による旅団や駐屯地の特性を聞き、最終日、名残惜しそうちに相馬原駐屯地を後にした。今回、生活体験に参加した社員は「自衛隊は「怖い」「厳しい」というイメージが強かったが、いざ隊員の方と接してみると皆さん優しく、旦那さんにするんだったらやっぱり自衛官ね」と笑顔で答えてくれた。



岩手・宮城内陸地震発生

平成20年6月14日8時43分



飛行隊長 岡村3佐
操縦士 渡辺江1尉
米澤1尉
源美2尉
菊池3尉
整備幹事 藤田3尉
整備員 日高2尉
林田2尉
阿部3尉
技士3尉
航空機整備 大熊3曹
吉田士長
熊崎士長



平成20年6月14日 午前8時43分東北地方においてマグニチュード7.2の地震が発生した。施設は、8時45分第3種非常勤務態勢に移行し、それを受けた待機部隊はいつでも出動できるべく準備を開始した。その中で第12ヘリコプター隊に対してCH-47、2機の陸自駐屯地への前進を指示、17時3分相馬原飛行場を離陸、18時34分陸自駐屯地に到着、東北方面航空隊の統制下に入った。

16日には小型ドーザーをCH-47機で花山ダム湖から空輸、翌17日については乗組員合コンラウンドからハイルサムホテルまでの間における公共機関関係者等及び資材等の空輸を実施した。この間、報道等で流れている被災現場を確認し、あらためて被害の大きさを目の当たりにした。第12ヘリコプター隊については17日8時50分任務終了により帰隊を命ぜられ、11時52分ヘリ隊長以下出迎えの中、相馬原飛行場に帰隊した。

また、第12施設中隊の油圧ショベル1両、人員8名（施設中隊6名、後方支援隊2名）が19日被災地に向かい前進し、土砂崩れ現場における道路の復旧作業を実施、6月27日任務終了につき新町駐屯地に帰隊した。



その後、旅山射撃場において砲列の射撃設備等、射撃後の状況を確認された。火砲の射撃設備の音並びにじびきを感ずることが出来た。今回の視察において、長射程射撃における特科隊射撃機の高さと、隊員一人一人の射撃に対する真剣かつ真摯な姿勢に感銘を受け、真摯な姿勢を確認する事ができた。



旅団長、第十二特科隊実射射撃を視察
北海道・矢野別演習場

5月29日(木)～6月1日(日)までの間、第12旅団長(長谷部隆輔)は矢野別演習場において第12特科隊(隊長・荒木1佐)の中・重砲兵射撃隊(FH70)を視察した。

30日19時から山吹台射撃場観測塔において旅団改編以来の照明弾射撃を視察した。あいにくこの日は風が強くなり射撃は困難と思われたが、隊員の射撃にかける強い思いが通じたのか、夕刻から風もおさまり予定通り上空750mから弾着地を照らした。

また、31日は同観測塔において旅山射撃場から弾着区域までの射撃約18キロメートルの射撃を実施。旅団長、特科隊長が見守る中、初弾が目標地域に弾着、その後も精度の高い射撃が続けられた。

第1次旅団訓練検閲

平成20年6月15日～19日

第12特科隊



第12施設中隊



第12旅団（旅団長・長谷部利雄）は、6月13日から20日までの間、東富士演習場において「第1次旅団訓練（実射）検閲」を実施した。今回の検閲は、第12特科隊（隊長・荒木一佐）、第12施設中隊（中隊長・高橋三佐）が「旅団の陣地攻撃における野戦特科部隊・施設科部隊の行動」を課目として指揮官活動・部隊の基本的行動・隊員の基礎動作について受閲した。

特科隊は、車両行進時、先遣隊を隊結地に向け前進させ、主力の進出を容易にする。その後、車両行進を行った。

特科隊は、車両行進時、先遣隊を隊結地に配置し、迅速かつ正確な射撃準備を行った。

一方施設中隊は、先遣隊を車両行進時、隊結地に向け前進させ、主力部隊を誘導。普通科中隊の攻撃における隊員の偵察、人員用通路の開闢、戦車用通路への拡張及びドーザーによる整備を行い普通科中隊の攻撃を容易にした。

また、応急降吉の構成、不規則地雷原（ヘリ散布地雷）の構成、破壊降吉などを作成し、敵の注意に備え、状況後半には70式地雷原爆撃装置の実爆を行った。

両部隊は、状況終了後、89式小銃による至近距離射撃、LAM（携帯対戦車弾）の評価射撃を受検し、日頃の練成の成果を遺憾なく発揮し任務を完遂した。

第48普通科連隊

本部管理中隊 関川 浩

私が大過なくこれまでやって来たのは妻の助言と指導によるものである。「・・・の様にするべきですよ」「・・・の様な事を言っているじゃない」「・・・の様に言われた通りにやったら、それはうまく行くし、そうでない時は、どうでもない事になる場合が多い。また衣食住全般に渡って妻のお世話になっている。

私は貧乏以外の苦労はあまりしていないので、世間が判っていないが、妻は結構苦労している。人の道？を心得ている。いつも後ろから支えてくれている妻に感謝している。今後とも心の糸をしっかりと結び、どんな雨風にも耐えて、共に人生行路を歩んで行きたい。

最後に蛇足・・・いつもThanks。愛しているぞ、えっちゃん！



マイ・ベストパートナー

新駐屯地司令着任

旅団は4月1日、第6代副旅団長兼第33代相馬駐屯地司令として、古河1佐を迎えた。

司令部春使、駐屯地業務隊長が出迎える中、相馬駐屯地に登庁した古河1佐は、旅団長に委任の申告をし、慰霊碑を参拝、幹部挨拶を受けた。



古川克樹（ふるかわ かつき）一佐の主な略歴

- ▽55年3月 36普通
- ▽61年3月 3師団（副官）
- ▽元年8月 富校（総務）
- ▽3年3月 松町柔降付
- ▽4年3月 春防（防衛）
- ▽6年3月 春訓（訓1）
- ▽8年3月 春訓付
- ▽9年6月 外務事務官（スウェーデン）
- ▽12年7月 春訓付
- ▽12年8月 幹校教官
- ▽12年12月 統泰（1）人計課長
- ▽13年7月 統泰（3）企画官
- ▽14年8月 36普通長
- ▽16年8月 東北方調査隊長
- ▽17年12月 9師団春使長・佐賀県出身、防大（航）23期、昭和32年3月29日生まれ。



新任部隊長紹介

第2普通科連隊長に
篠田 純（しのだ・じゅん）一佐



- ▽56年3月 16普通
- ▽63年3月 幹校
- ▽4年3月 36普通中長
- ▽5年3月 富校（総務）
- ▽10年8月 18普通
- ▽14年3月 歩訓課長
- ▽15年12月 1師団4部長
- ▽18年8月 補統（総務）
- ▽務課長、鹿兒島県出身、防大（管）24期、昭和32年10月15日生まれ。

第13普通科連隊長に
三上 繁（みかみ・しげる）一佐



- ▽59年3月 28普通
- ▽62年3月 幹校
- ▽元年3月 17普通
- ▽4年8月 兵庫連
- ▽6年8月 21普通中長
- ▽8年3月 統泰（5春）
- ▽11年3月 春人（募集）
- ▽14年3月 東方（管）
- ▽17年4月 2退団本
- ▽18年3月 14旅団3部長、岡山県出身、防大（土）27期、昭和35年9月10日生まれ。

第12ヘリコプター隊長に
筒見 香一（つみ・かずみ）一佐



- ▽2年3月 北方降
- ▽5年3月 北方降降付
- ▽11年8月 休校
- ▽12年8月 中支隊降付
- ▽13年8月 春防（運用）
- ▽16年8月 陸隊長副官
- ▽福岡県出身、防大（管）33期、昭和41年7月11日生まれ。



- ▽5年3月 2高特群
- ▽8年3月 幹校降
- ▽10年3月 2高特群
- ▽16年8月 少1校
- ▽18年3月 2高特大、鹿兒島県出身、新制高、生徒27期、昭和41年1月4日生まれ。

第12通信中隊長に
鈴木 実（すずき・みのる）三佐



▽8年3月 東北方通群

▽13年9月 東北方（防）

▽17年8月 通校

▽18年4月 イラク復業

支隊

▽18年6月 イラク後送業

降▽18年9月 通校、広島県出身、防大39期、昭和47年4月26日生まれ。

第12旅団司令部付隊長に
松井 保夫（まつい・やすお）三佐



- ▽62年3月 12戦大
- ▽63年3月 12師団（副官）
- ▽2年3月 12師団（春使）
- ▽4年3月 12戦大
- ▽7年3月 12戦大中長
- ▽10年3月 12戦大
- ▽13年3月 1戦大
- ▽16年3月 12偵隊本付長
- ▽17年8月 12旅団（総務）・群馬県出身、新制高、昭和30年3月14日生まれ。



羽ばたけ！若人

第48普通科連隊

第12旅団ではこの春、268名の新隊員が入隊。桜の花がまだ蕾のころから桜花爛漫のころまで気節に差がある各駐屯地に入隊式を実施した。4月8日桜がまた蕾にも達しない第13普通科連隊（松本）に60名、第2普通科連隊（高田）に53名、同じく開花が始まった第30普通科連隊（新発田）に55名、第12特科連隊（宇都宮）には桜花爛漫ではあったものの生憎の雨の中61名が入隊した。第48普通科連隊（相馬原）は好天でかつ桜花爛漫の9日に33名が入隊し陸上自衛官としての第一歩を踏み出した。



本訓練公開は、自衛隊に対する理解と信頼を深めようとする目的の下行われ、今年で5回目の実施となった。当日は、小雨が降り続き、地面はぬかるみ、肌寒い状況であったが、新隊員は泥にまみれながらも寒さを吹き飛ばす力強い動きを次々と実施し自衛官として逞しく成長していく姿を家族に披露した。訓練終了後は、家族と昼食・懇談をし、東の間の団集の時を過ごした。また教職員参加者に連隊長が自衛隊の募集制度等についてブリーフィングを実施した。

参加した家族や教職員の方々は、短期間で成長した新隊員達に心を打たれた様子で、「息子の成長が頼もしい。」「入隊させて良かった。」などの言葉があった。



栃木地本

栃木地本（本部長・山野一佐）は、6月7日（土）及び8日（日）、壬生町わんぱく公園で実施された「県民の日」記念行事において、天候にも恵まれ多くの家族連れで賑わう中、自衛隊広報展を行った。



会場に設置した自衛隊広報展（1/2）において、陸・海・空自衛隊の職業紹介、ミニ戦闘展の展示・試着を行った。ミニ戦闘展の試着では、子供たちより親の方が興味を示し、はしゃぎ回る子供に苦勞してミニ戦闘展を著せ、記念撮影する等、ほほえましい光景が見られた。特に今回実施したロープによる結索法の展示では、他のブースに負けないくらい多くの人が賑わった。展示では、男性より女性に興味を持ち、「こんなロープの使い方もあるんですね。ほほえましい...すこい。」と熱心に結索法を教わっていた。栃木地本は、様々な機会を活用し、更に興味を持ってもらえる企画で、広報展に臨みたいと考えている。

長野地本

長野地本（本部長・田上1佐）は、5月27日（火）長野市内のホテルで実施された東部方面総監部主催の「平成20年度都県募集連絡会議」を支援した。

本会議は、東部方面管内の1都10県の募集事務主管部・課長等に対して自衛隊への理解と認識を向上させるとともに、自衛隊と各都県の連携を強化し、組織募集を推進するための各都県の持ち回りで毎年開催しているものである。

会議には、各都県をはじめ内局・陸・海・空等から関係者51名が参加し、組織募集推進等について活発な意見が交わされた。

冒頭、東部方面総監及び村井長野県知事が挨拶し、知事からは、「多くの活動員や優秀な人材、脆弱な地質といった自然条件を有する本県のような地域では、災害発生時に、住民の生命・財産を守るために尽力していただける自衛隊は非常に強い存在。自衛隊の果たしている役割を若者に十分理解していただき、人材確保につなげていくには、関係機関・団体の密接な連携が不可欠。」として会議で率直な意見交換と募集活動の環境整備推進を希望の挨拶があった。

次いで会議においては、内局・陸・海・空・東部総監部の各種説明と報告が行われた後、各地方協力本部

平成20年度都県募集連絡会議



長及び各都県から「各都県・市町村における募集広報の協力の現況及び推進施策」及び「教育委員会、学校からの募集広報協力の現況及び推進施策」等について活発な意見交換が行われた。

群馬地本

群馬地本（本部長・浦野1佐）は4月19日（日）、平成20年度の自衛官等採用試験を相馬原駐屯地で行い、今年度の採用試験をスタートさせた。



当日は晴天となり絶好の試験日となった。受験者は受付を済ませると、午前中に身体検査と口述試験、午後から適性検査と筆記試験という順で受験していった。筆記試験が始まると、受験者は40分という短い時間であったが、自分の気持ちを集中させて難問に立ち向い、自分の夢を叶えるため最後まで真剣に受験していた。試験を終えた受験生からは口々に「今まで一生懸命に勉強してきた事が、十分に発揮できました。自分の力を信じ、合格を待ちます。」と力強い言葉が聞かれた。

高田駐屯地で記念行事を実施

高田駐屯地

高田駐屯地(司令・山下1佐)は4月20日、快晴の下、高田駐屯地創設58周年記念行事を実施した。来賓・一般入場者等総勢6,700名が来場し、式典・観閲行進・訓練展示などが行われた。



訓練展示では、ラップ吹奏、少年工科大学生徒によるファンシードリルの披露、その後の模擬戦ではお家系のファーストロープ・エキストラクション・ロープを使用した空路潜入・離脱に続き、空地共同での作戦を披露。緊迫感溢れる訓練に観客は釘付けとなり歓声を上げていた。その他、ジープ試乗、豚汁コーナー、各中隊の趣向を凝らした模擬売店に長蛇の列が出来る賑わいをみせ、来場者は楽しい一日を過ごした。

新築田駐屯地



新築田駐屯地(駐屯地司令・出口1佐)は5月17日から18日にかけて、駐屯地および連隊記念行事を挙行政した。創設55周年という節目を迎えた記念式典は、多数の来賓等を引き、



例年以上に工夫を凝らして盛大に行うとともに部隊の勇姿を堂々と披露した。17日、新築田市本町交差点から中央町交差点の間を使用し市パレード(入員300人・車両20両・航空機7機)を行い、沿道に詰めかけた大勢の市民(約1,000人)

が声援と拍手を送る中、感風堂々とした行進を行った。続く18日は、記念式典を行い、駐屯地司令の式辞および来賓から祝辞を頂いた後、観閲行進へと移行、引き続き第12音楽隊と新築田駐屯地音楽クラブ合同による音楽演奏を行った。

続く格闘訓練展示では、今年3月に実施された旅団格闘競技会で活躍を見せた銃剣道および格闘訓練隊が切れのある技を披露し会場を沸かせた。

続いて防衛大学校儀仗隊によるファンシードリル、最後に模擬戦訓練隊の迫力ある戦術行動で部隊の精進さをアピールした。

式典終了後は、グラウンド内において各種装備品展示や高機動車の体験試乗を行い、観客たちは実際に装備品や車両に触れ、珍しそうにその感触を楽しんでいた。

また各店味自慢の野外売店には大人から子供まで大勢の人で賑わい、長蛇の列が絶えなかった。記念行事には、約700人の観客が訪れ、心ゆくまで楽しんだ。

松本駐屯地

松本駐屯地(司令・三上1佐)は4月20日「松本駐屯地創設58周年記念行事」を実施し、県内外に松本駐屯地の存在をアピールした。式典当日、午前9時から一般開放は、9時から入門を待つ来場者が多かったため、8時40分に開門され続々と入場、式典会場に向かっていた。

記念式典は、駐屯地各部隊の進入から開始され、巡閲、執行者式辞、来賓祝辞、観閲行進の順で行われた。



に咲き始めた桜がまさにこの日を待っていたかのようにつつまれ、感風堂々の部隊進入をしている駐屯地各部隊の姿があった。

駐屯地司令は式辞の中で「いかなる任務にも対応しうる部隊の練成に邁進していく」と述べた。また村井長野県知事は「長野県がやき国体の支援や各災害派遣に感謝している。自衛隊の活躍に期待している」と述べた。

式典が終了し、第12音楽隊の演奏、アルプス太鼓クラブの演奏に引き続き第3中隊(中隊長・増田3佐)が訓練展示模擬戦訓練隊を実施、その迫力に驚きの声が上がっていた。

記念式典と併せてレンジャー訓練展示、ふれあいコンパット広場、ちびっ子コーナー、ドキドキクルーシング等、子供から大人まで盛りだくさんの内容のアトラクションで午後3時の一般開放終了まで、賑わいが途切れることはなかった。

新町駐屯地

新町駐屯地(司令・前田1佐)では4月6日、国会議員、市町村長、協力団体等約500名の来賓および一般見学者約1万5千人を迎えて「新町駐屯地創設57周年記念行事」を盛大に挙行政した。式典は、午前10時に執行者への敬礼で開始され、巡閲、駐屯地司令の式辞に引き続き、地元群馬県選出の山本参議院議員、



大澤群馬県知事、松浦高崎市長の祝辞後、第12音楽隊の演奏の下で感風堂々の観閲行進が行われた。訓練展示では、ヘリコプターUH-60から戦域への戦闘員及び衛生救護員リベリング降下、74式戦車及び特科火砲FH70による敵陣地攻撃、



戦闘員の実業及び陣地占領等の模擬戦訓練隊が行われ、戦車等の大型火砲の空包射撃が満開の桜花を彩る中、ヘリコプターのダウンウオッシュ、花吹雪を舞い上がらせ、会場は感嘆の声が上がった。

また装備品展示では、ヘリコプターや装甲車等を背に記念撮影をしたり、災害派遣活動の写真パネルに見入る人達で混雑し、高機動車試乗でも九百名を超える人が試乗する程の人気を博した。

なお、5日、6日の両日に駐屯地を開放して開催された「しんまち桜まつり」と「創立記念行事」には合わせて2万2千人の方々が来場し、地域住民との交流を一層深めることができた。

北宇都宮駐屯地

5月18日北宇都宮駐屯地は、部隊内から募集した「国務ろー地域と絆」をスローガンに、開設35周年記念行事を開催した。式典の中で下地駐一駐屯地司令は「栃木の大空を地域の皆様からお借りしていることに感謝をし、信頼される駐屯地を目指すと述べた。続いて合計13機による編隊飛行や展示飛行が行われ、次々に披露される航空機の迫力に会場からは拍手と歓声があがった。

地上では富士学校音楽隊による音楽演奏や、航空操縦学生のパフォーマンスを魅了。さらに航空機の地上展示では、普段間

近では見られない航空機の前で記念撮影をする姿が多く見られ、駐屯地は約7400人の航空ファンや家族連れで賑わった。

吉井分屯地



吉井分屯地(司令・深山1佐)では、4月27日、吉井町長をはじめ群馬県議会議員など来賓多数を迎え、開設53周年記念行事を挙行政し、約1100人の来場者が訪れた。

